

流動

学びを生む地域コア小学校

受動的な現在の学びに対し、
自発的な学びのきっかけを建築生み出せないか？
大きく縮小を迎えるまちで小学校は地域にどう貢献するのか？

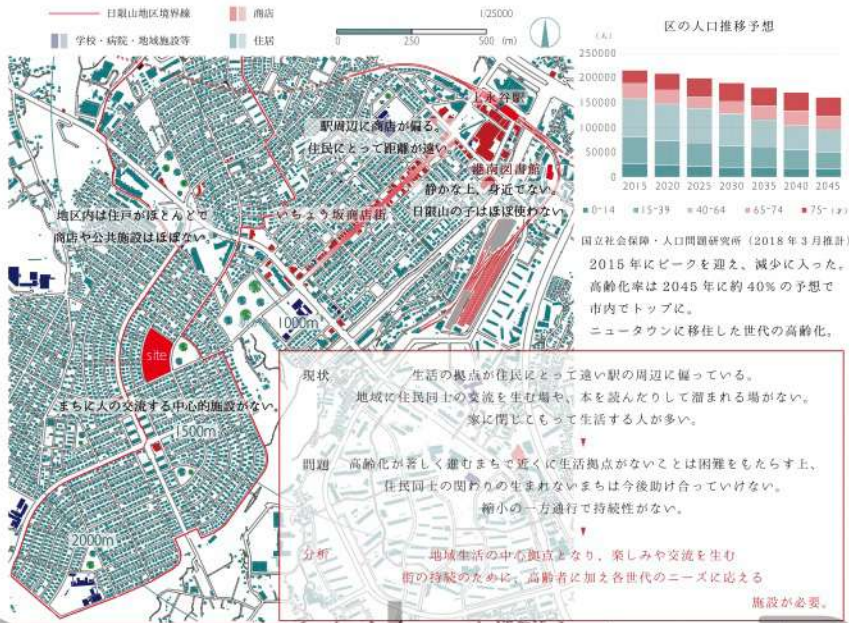
地域コアと小学校の2つの連続したボリュームを絡ませる。
生徒は動線を“流動”し、人や自分の場所、興味と出会う。

“流動”が発見と探求をもたらす。
そして“流動”は学びを生み出す。



敷地：横浜市港南区日限山小学校

日限山地区：50年前に開発された宅地分譲地



“学び”

本来の“学び”とは、
受動ではなく、自発的行動だと考える。

現在の教育は生徒が受動的なものである。
学びが“やらなくてはならない”ものという否定的認識。

自発性には“きっかけ”を要する。



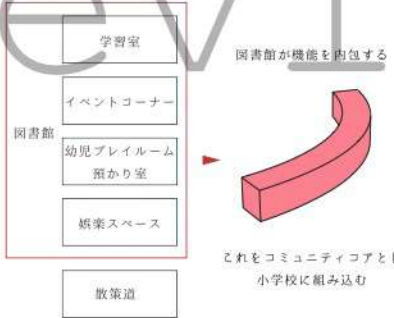
きっかけの要因は人により異なり、“ある出会い”によって偶然生まれる。

よって、現在の画一的な手法ではなく一部を生徒にしかねていない。



授業のみならず、移動でも遊びでも“学び”が起こる仕組みを設計する。

生徒はそこを気流の如く流動し、
自らの場所・興味・能力・出会いを見つける。



コミュニティコアとしての学校

地区の中心にある学校を、住民が地域生活の中心拠点として日常利用できるようにする。

セキュリティの観点から両者は2箇所のみで交わり、残りは互いに見える事にとどめる。時間外は特別教室を解放する。

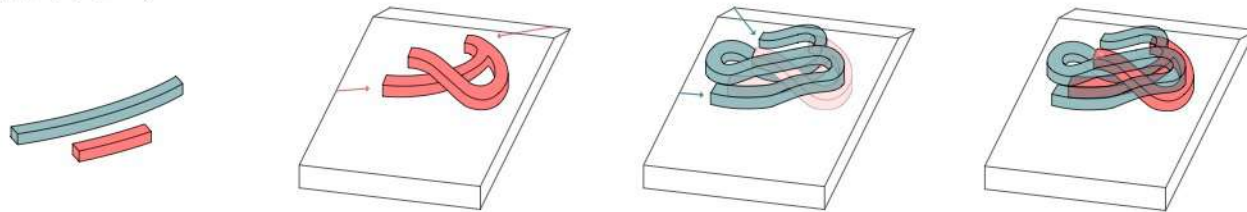
地域分析より

- ・楽しみや交流を創出し、多世代のニーズに応えるプログラムを考える。
- ・本を身近にし、おしゃべりや滞在を可能にする図書館がそれを内包する形式とする。

各世代のニーズ

- | | |
|--------|---|
| 幼児 | 親と一緒に遊べる。プレイルームで遊べる。 |
| 小学生 | 学校生活にとどまらず、さらに広がった経験ができる。 |
| 中学生 | 中学校の部活動や、休日に寄って勉強できる。 |
| 高校・大学生 | ボランティアで社会と接することを学ぶ場所になる。卒業後も利用できる。大人になる世代が地域に愛着を持つ。 |
| 働く人 | 仕事帰りに、子供を預かり室に迎えに行く。 |
| 育児中の人 | 知り合いができ、子育ての相談もできる。暇の日も幼児を遊ばせることもできる。 |
| 高齢者 | 余暇を本を読む・知人と話し、遊ぶ事に使える。見守り、見守られる。自分の知識を伝えられる。(生きがいの創出) |

2本のチューブ



動線の連続した、どこまでも動き回れる小学校とコアのチューブ。それぞれ活動を触発する機能を内包する。

まちから連続するようにコアを配置する。高齢者の利用の為、低層に配置。

小学校をコアに互いの視線や動きが交錯するように絡ませる。互いの存在を認識。

子供が小学校動線を流れると、2つのチューブでの活動が次々と目に入る。自分の場所や新しい人、興味と出会う。“流動”が学びを生む。





Design Review 2020







DesignReview2020